

# 令和6年度 学校経営計画

## 1 学校教育目標

### (1) 教育目標

豊かな心と健やかな体で、学問・スポーツ・芸術に打ち込み、志を高く、世界を見つめる人間を育てる。

### (2) 教育方針

- ア 自主自律の精神を育成し、自ら学習する態度を培う。
- イ 心身を鍛練し、責任ある態度と自他の生命を尊ぶ健全な人格形成をめざす。
- ウ 個性を伸ばし、自然と芸術を愛する心を養い、豊かな感性を育てる。
- エ 外国語の習得と、積極的な国際交流を通し、国際人としての基礎を培う。
- オ 相互敬愛の念を持ち、社会に奉仕する心を育てる。

## 2 学校の特徴

本校は、昭和2年4月に伏木町立伏木商業学校として創設され、今年で創立97周年を迎える。国際貿易港・伏木富山港を眼下に望む立地を活かし、長年に渡って、商業科、貿易科、普通科の教育の中で国際理解教育を推進してきた。平成17年4月の学科改編により、それまでの普通科4学級にかわって国際交流科3学級が設置された。国際理解教育を中核とする専門学科の単科高校として新たなスタートをきり、今年で19周年を迎える。

国際交流科は、国際化社会の中でたくましく生きていくために必要な基礎・基本の学力を培い、コミュニケーション能力を高めることを目標としている。専門的な知識と技能を修得するために、国際理解に関する専門教科や英語に加えて、中国語・韓国語・ロシア語いずれかの第2外国語を学んでいる。また、実践的な語学力と異文化理解を深めるため、アメリカ、中国、韓国、ロシアの4か国それぞれに友好校をもち、中国、韓国、ロシアの3か国と相互交流を行ってきた。

生徒は第2学年の3月までにいずれかの国の友好校へ語学研修に行き、ホームステイを体験しながら、実践的な語学力を高めるとともに、異文化の理解を通して自己理解を深めている。

## 3 学校の現状と課題

### (1) 現状

本校は県下唯一の国際交流科単独校として、コミュニケーション能力の向上やグローバルな視野を育成している。コロナ禍以降、社会情勢の不安定な面も重なり、本校の国際理解教育の中核である海外語学研修に影響を及ぼしている。短期間の海外語学研修や国内語学研修に加え、オンライン交流を行ってきた。今年度は、友好校への海外語学研修（12月韓国・台湾、3月米国）の実施を予定し、また、受け入れ事業（7月韓国・10月台湾）を実施する予定で調整している。現地での体験交流プログラムと来校プログラムを充実させ、本校の魅力を積極的に外部へ発信していきたい。

また、生徒は素直で社会貢献意識が高い反面、自分に対する自信や満足度がやや希薄で、活動に消極的な面も見られる。伏木地区の歴史・文化を教育資源と捉え、地域の清掃活動や行事に対して協力参加を引き続き促し、地域貢献を通して生徒の主体性・積極性を育みたい。

### (2) 課題

- ・学習活動では、生徒の主体的で対話的で深い学びの実現に向け、指導方法の改善を図り、学習の意義や充実感を与え、進路目標の実現を目指した学習習慣の定着を図ることが必要である。
- ・本校の特徴であるSETプログラム（毎朝5分間の英語放送）の学習への効果的な取り組み方や活かし方と、第2外国語の日常的な会話ができる語学力の習得では、特別講師と連携して興味関心を引き出し、具体的な達成目標を明確にした指導が必要である。
- ・友好校との相互交流は、国際理解を深めるだけでなく、自らの生き方やあり方を考え、新たな価値観を獲得する貴重な機会であり、学習の充実感と自信につながっている。コロナ禍以降も、国際交流の進め方を工夫することで、新たな学習プログラムを開発し、グローバルな視点で学習を深める手段を企てていく必要がある。
- ・学校生活では基本的な生活習慣を確立する指導を粘り強くする必要がある。また、多様な背景をもつ生徒や心に悩みを持つ生徒に支援するためSC・SSW等との連携が必要である。
- ・特別活動では、生徒会活動や部活動を通して、心身の調和のとれた人格の育成を目指すとともに、読書等を通して思索する態度、自ら考えて実践する能力を育む必要がある。